

令和6年度

島根県立青少年の家運営委員会

日 時 : 令和7年2月18日(火) 10:00~
場 所 : 島根県立青少年の家 第4研修室



島根県立青少年の家

令和6年度 島根県立青少年の家運営委員会 次第

日 時：令和7年2月18日(火)10:00～
場 所：島根県立青少年の家 第4研修室

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 施設の利用状況等について . . . 資料 1
- (2) 令和6年度主催事業の実施状況について . . . 資料 2-1
- (3) 令和6年度所外での体験活動の啓発実績について . . . 資料 2-2
- (4) 指定管理の状況について . . . 資料 3
- (5) 施設管理の状況について（指定管理者:北陽ビル管理株式会社） . . . 資料 4
- (6) 施設・設備の修繕工事等について . . . 資料 5
- (7) 青少年の家の改修工事について . . . 資料 6
- (8) 令和7年度の主催事業について . . . 資料 7

3. 閉 会

令和6年度 青少年の家運営委員会 名簿

■ 運 営 委 員

	氏 名	所 属 等
1	中谷 陽子	公立大学法人島根県立大学 准教授
2	飯塚 大幸	宗教法人一畑寺 一畑薬師管長
3	黒崎 光恵	公益財団法人ホシザキグリーン財団 広報課長
4	真玉 玲子	島根県中学校長会 幹事 (出雲市立湖陵中学校長)
5	大森 栄二	島根県スポーツ少年団 本部長
6	西山 祐子	公益財団法人 島根県障害者スポーツ協会 主任
7	植田 智子	島根県保育協議会 理事 (社会福祉法人敬川保育所 所長)
8	渋川 あゆみ	公益社団法人島根県看護協会 副会長
9	山本 翔	島根電工株式会社 管理本部教育課長
10	松村 健次	株式会社山陰中央新報社 執行役員 論説委員会論説委員長
11	佐野 美保	島根県小学校長会 (出雲市立北浜小学校長)
12	渡部 和夫	宍道湖漁業協同組合 代表理事組合長
13	古藤 啓一	島根県子ども会連合会 会長
14	野津 孝明	島根県公立高等学校長協会 (島根県立平田高等学校長)
15	吾郷 佳子	東コミュニティセンター マネジャー

令和6年度 利用状況(4月～1月)

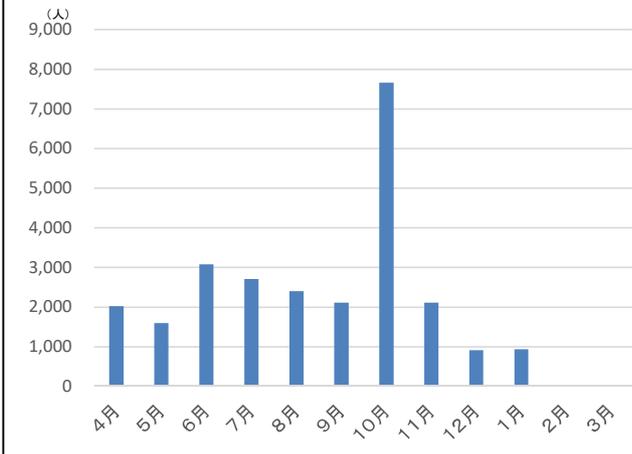
資料1

月別研修者数

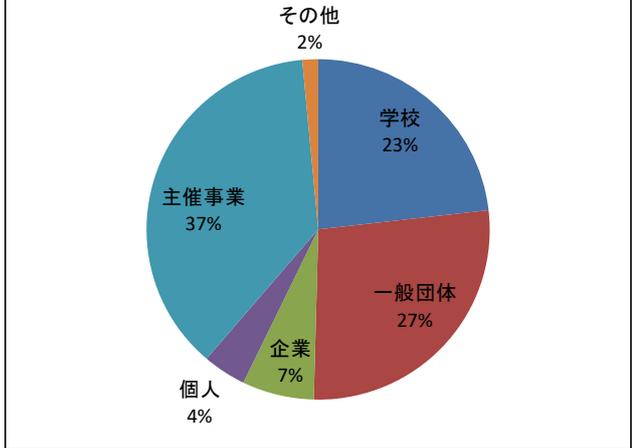
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年比
R6	2,021	1,594	3,077	2,706	2,395	2,111	7,658	2,111	909	933	()	()	25,515	112%
R5	1,723	1,817	2,041	3,228	2,666	2,295	1,865	1,417	918	764	2,126	1,856	22,716	

※R6合計は、R7.1月分までの計

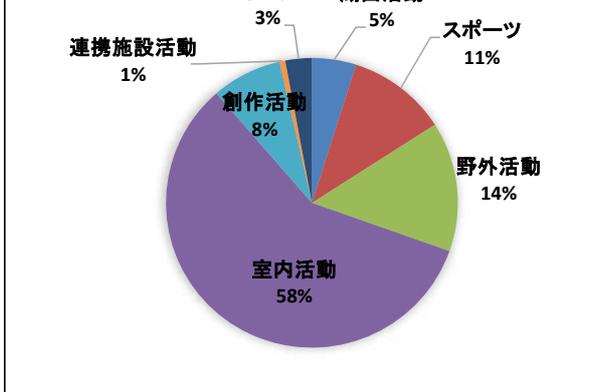
1 月別利用状況



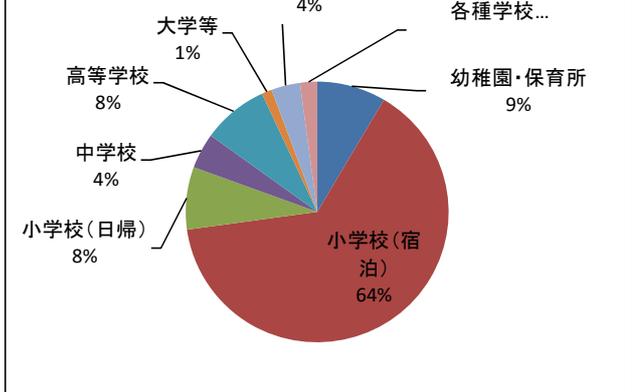
2 団体分類



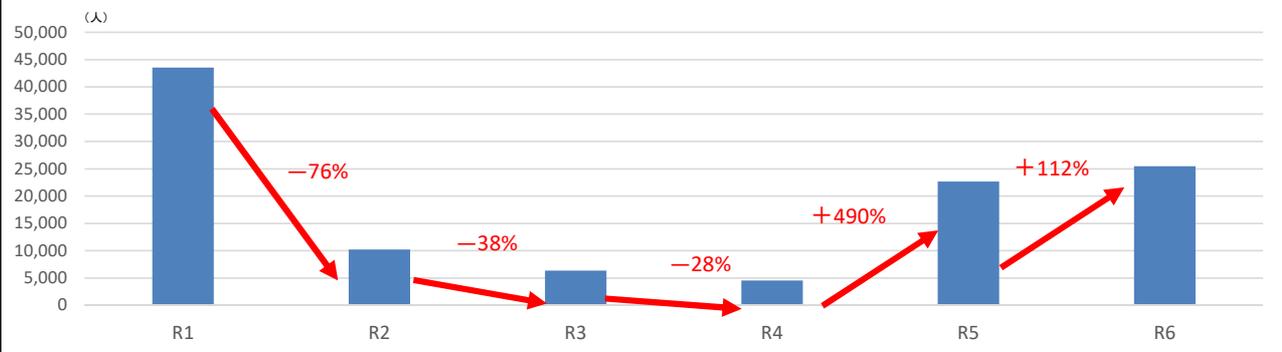
3 活動分類



2-2 学校別



4. 直近6年間の利用者数の推移 (今年度数値は1月末現在)



社会全体におけるコロナ禍による影響や宿泊療養施設に伴う休所・部分開所の影響はR4で底を打ち、R5・R6は回復傾向にある。しかし、コロナ禍を期に住民の社会教育施設の利用が以前ほどには回復していない状況は続いている。

令和6年度 島根県立青少年の家 主催事業等実施状況

資料2-1

事業名等	事業のねらい	参加対象及び人員等	実施時期
1 施設開放事業 計5,877名			
① 春のオープンデー ② 湖面カーニバル ③ サン・レイク フェスティバル	施設設備を広く県民に開放し、青少年の体験活動の場、地域の交流の場を提供し、「青少年の家」の施設の理解と活用の促進に資する。	どなたでも ① 457名 ② 420名 ③ 5000名	年間2回 ① 4/28 ② 6/2 ③ 10/20
2 青少年教育事業 計112名			
〈地域【保育所等】の宿泊体験活動モデル事業〉 ○にんにんチャレンジ	基本的な生活習慣の形成と仲間と最後までやり通す力及び集団への適応力向上のきっかけとする。	年長児 ① 20名 ② 19名	年間2回(土日)1泊2日 ① 11/23-24 ② 11/30-12/1
〈地域【公民館等】の宿泊体験活動モデル事業〉 ○キッズチャレンジ ①スコアOL、一畑葉師階段上り ②調理活動、スタンプバッグ作り ③登山(大浜山)・そばづくり他	集団での生活体験や施設周辺での自然体験などを通して、協調性や自主性を学ばせきっかけとする。また、何事にも挑戦する気持ちを育む。	小1~3年 ① 12名 ② 24名 小4~6年 ③23名	年間2回(土日)1泊2日 ① 8/31-9/1 ② 11/2-3 年間1回2泊3日 ③12/26-28
〈次代のリーダー育成事業〉 ○サマーチャレンジ 海での体験活動、野外炊飯、登山	様々な体験活動を通して、体験活動への興味・関心を高め、活動するために必要な知識やスキルを習得する。 多くの人と体験を積み重ねることにより、「社会を生き抜く力」として必要となる基礎的な能力を養う。	小6~高1 ① 14名	年間1回3泊4日 ① (8/7-10)
3 家庭教育支援事業 計214名			
〈宿泊体験活動〉 ① にこにこファミリー	家族や家族同士が触れ合う体験活動や講座、施設開放を提供する中で、家庭の教育力向上に資するとともに、体験活動への理解・普及に努める。	小学生を含む家族 ①10家族35名	年間1回(土日)1泊2日 ① 2/1-2
〈ひとり親家庭応援〉 ② エンジョイ! 親子キャンプ		ひとり親家庭 ②8家族20名	年間1回(土日)1泊2日 ② 7/20-21
〈各種体験活動〉 ○わくわく体験講座 ①秋の自然のクラフト ②野鳥観察 ③凧作り ④ローストチキンをつくろう ⑤LEDキャンドル ⑥おにぎらず(恵方巻) ⑦鬼の面のレリーフ		未就学児や小学生を含む家族 ① 10名(4家族) ② 28名(8) ③ 18名(6) ④ 24名(8) ⑤ 6名(3) ⑥ 42名(13) ⑦ 31名(8)	年間8回程度(土日) 半日~1日 ① 11/16 ② 12/8 ③ 12/14 ④ 12/21 ⑤ 1/12 ⑥ 1/18 ⑦ 1/18
4 体験活動支援者養成事業 計48名			
○ 体験活動基礎講座	青少年活動をはじめとする地域活動やボランティア活動に必要な理論や技術を体験的に学べる機会を提供し、活動する上で必要なスキルの向上を図り、併せて社会貢献への意欲を高める。	教職員、大学生、公民館等職員、青少年教育関係者等 ① 10名 ② 中止 ③ 中止	年間3回(土日) (1泊2日×3回) ① 5/25-26 ② 6/8-9 ③ 6/15-16
○ なかまづくりセミナー	なかまづくりゲームがチームビルディングの構築やリーダーシップの向上に有効であることについて実感してもらい、自分の所属等で仲間づくりゲームを活用した人材育成を行う意欲を高める。	教職員・研修担当者・公民館等職員・大学生等 ① 19名 ② 19名	年間2回 ① 7/30 ② 8/19
5 地域支援事業 計150名			
○ 地域の体験活動支援事業 アイスブレイク 体験活動における応急処置 体験活動におけるリスクマネジメント ニュースポーツ なかまづくりゲーム 体験活動におけるリスクマネジメント	公民館等が学校や地域住民などの協力を得て行う宿泊や日帰りの体験活動を支援し、地域づくりを担う人づくり推進の一助とする。	公民館等職員 ① 50名 ② 11名 ③ 40名 ④ 12名 ⑤ 25名 ⑥ 12名	通年 ① 6/20(中国地方BBS連盟) ② 7/3(奥出雲町教育委員会) ③ 7/18(安来市中央交流C) ④ 7/17(北浜コミセン) ⑤ 11/22(日御碕コミセン) ⑥ 12/6(島根県立大学)
6 地域連携事業			
○ 近隣施設や地元コミュニティセンター(CC)等地域との連携強化	体験活動の普及・啓発及び主催事業等の充実を図るため、近隣施設や地元コミュニティセンター等地域との連携強化を行う。		通年

令和6年度 所外での体験活動啓発実績

	事業等名	期日	会場	参加人数
1	島根県公民館連絡協議会評議員会	5月8日	サンラポーむらくも	35
2	東地区文化祭	10月27日	旧東小学校	104
3	伊野地区文化祭	11月5日	伊野コミュニティセンター	83
4	北浜地区文化祭	11月13日	北浜小学校	19
5	しまねの人づくり大交流会	11月15日	島根県民会館	100
6	出雲市PTA連合会交流事業	12月14日	カミアリーナ	138
			計	479

※この他、資料3-1で前述した「地域の体験活動支援事業」にて、市町村や公民館等へ出向いて助言を行いました。

指定管理の状況について

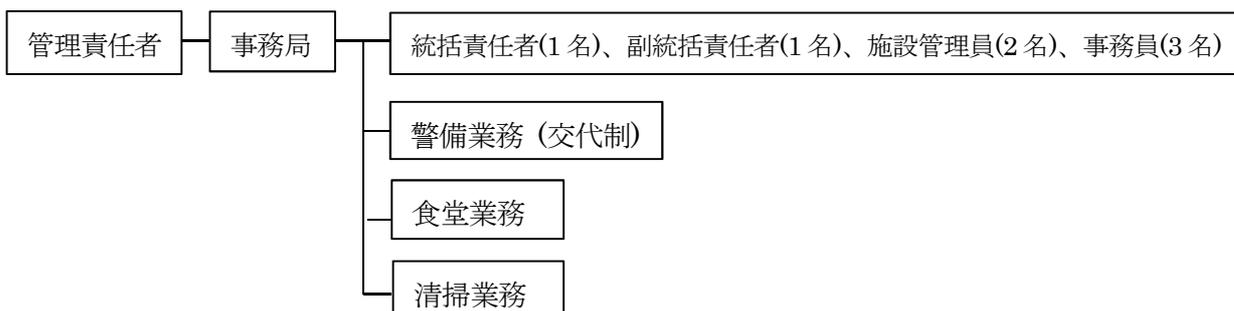
1 指定管理の状況

No.	年 度	期 間	指定管理者	備 考
(1)	H 3～18年度 (16年間)	県の直営時期	—	
(2)	H19～21年度 (3年間)	指定管理第1期	北陽ビル管理(株)	
(3)	H22～26年度 (5年間)	〃 第2期	〃	
(4)	H27～R元年度 (5年間)	〃 第3期	〃	
(5)	R 2～ 6年度 (5年間)	〃 第4期	〃	
(6)	R 7～ 11年度 (5年間)	〃 第5期	〃	

2 目的

民間事業者が有するノウハウを活用し、効率的かつ適正な管理運営を行うことにより、施設の利用者に対するサービスの質の向上を図る。

3 組織・体制



4 業務内容

- (1) 使用料の徴収及び還付並びに現金の納付 → 使用許可・納入通知書の発行は、県
- (2) 施設・設備の維持管理
 - ①建物管理・設備等保守管理及び稼働
 - ②見積額 50 万円未満の施設・設備の修繕 → 50 万円以上の修繕は、県執行
 - ③備品等管理 → 備品購入は、県執行
 - ④警備・清掃・廃棄物処理・環境整備
 - ⑤自販機等設置
- (3) 施設運営補助
 - ①管理的業務及び内部管理事務
 - ②受入事業・主催事業の補助及び経費の支払い
 - ③食堂及び売店の運営
- (4) 東部社会教育研修センターの施設及び設備の維持管理
- (5) その他
 - ①事業計画の作成

- ②業務報告書の作成
- ③事業報告書の作成
- ④運営委員会等関係機関との連絡調整
- ⑤帳簿の整備
- ⑥事業提案

5 指定管理業務評価（令和5年度）

総合評価 B

施設管理の状況について

■施設管理の現状

- 環境整備員を専属で雇用し、植栽の剪定、落ち葉清掃、除草、グラウンド芝の管理を定期的実施しています。通路沿い、屋外での活動範囲の樹木にも目を配り枯れ枝の除去及び伸びすぎた枝の伐採を実施しています。また、施設奥のテニスコートに土が入った状態のため土の除去をしました。
- 施設の長寿命化を図る為「建築保全業務共通仕様書」を元に施設管理を実施しています。6年度から年間保全計画を作りなおし細かく確認ができるようにしました。それと合わせ日々点検・記録を実施しています。異常を発見した際は速やかに対応をしています。また、浴槽、食堂の備品、空調等使用不可になると使用者に多大な迷惑をかける設備については、県と協議し迅速に対応を行っております。
- 2か月に1回のレジオネラ属菌検査を継続しております。今年度いっぱいまで継続予定です。それと並行して浴槽高濃度洗浄と浴槽稼働日程を考慮した24時間浴槽循環を実施し再発防止を図っています。



階段上枝伐採前



階段上枝伐採後



木の回収



テニスコート土の撤去作業



テニスコート土撤去後

■食堂の運営について

- 食堂厨房機器については正常稼働と衛生面を考慮して、専門メーカーによるメンテナンス点検を年1回実施、機器リストを作成し、その内容を月1回の「施設運営連絡会」に反映させ県と情報共有し修繕計画に活用しています。

■経費の執行状況

- 引き続き中国電気保安協会の「Web デマンドサービス」のモニターの「総電力、最大電力、瞬間電力、予測電力」のデータ等を見ながら、設備運用を予測することで事前に宿泊室の冷暖を準備し冷房時、暖房時の瞬間電力制御ができています。

■施設の運営

- 設備の日常点検を実施し、不備があれば早急に対応しております。環境整備については専属の職員を配置し、日々綺麗な状態であるよう努めています。主催事業のチラシ配布準備・食材、物品準備については経験をもとに事前に行動しスムーズに行えるよう研修支援課と連携し実施しております。

■今後の課題

- 老朽化に伴い施設設備の修繕が今後も増加すると予想されます。また、天井裏に設置してあるファンコイルの排水管メンテナンス等隠れている部分の保守が必要と考えます。

食堂部門

●食品事故防止衛生消耗品へ変更

①手袋

- ・食中毒防止のため、食品は必ず素手では扱わないようにしています。その際の手袋を着用することを義務付けました。その際、破れ等で食品に混入しても分かるように、食品の色にない「ブルー」の手袋を使用しています。

②ラップ、テープ

- ・異物混入を防止するため「ブルー」の色付きで統一しました。
- ・厨房内でのセロハンテープは使用禁止とし、色付きのみ使用をする



食品にない色（ブルー）で、万が一混入しても分かるようにしています。

●主催事業時の食事について

- ・主催事業ごとにメニュー、お弁当、梱包など、研修支援の担当者と相談しながら提案をしています。コンセプト、世界観を大切に食事提供をしています。



写真：エンジョイ！親子キャンプ
（スイカのフルーツポンチ）



写真：サマーチャレンジチャレンジ
（ミニパフェ作り）

●懇親会食事提供（コロナ後初）

- ・予算に応じてビュッフェスタイルの懇親会をしました。
低予算で、最大限のおもてなしを心がけ、喜んでいただけたと思います。



●食堂内での季節の演出を心がけています。

- ・食堂内のいたる所で、季節を感じていただけるよう、小物を使って工夫しました。



●衛生講習会、メニュー検討会を実施しています。

- ・食中毒等が流行する前に、衛生管理マニュアルをもとに講習会を実施しております。
また、メニューの検討会は年に4回実施し、メニュー変更の前に職員で手順などを確認しています。

●月に一回、研修支援課と「食堂連絡会議」を開催しています。

- ・食堂職員、事務室職員、研修支援課で意見を出し合い、困りごとや、提案等を話し合っています。その会議の内容は、記録し、それぞれのグループ内で回覧し、共通理解が出来るようにしています。

講習会様子



令和6年度 施設・設備の修繕工事及び備品購入について

平成3年の開所から30年以上が経過し、施設、設備、備品が老朽化しているため、県の関係部署と調整しながら、施設や設備の修繕工事、備品の更新を行っている。

令和6年度の状況は次のとおり。

1. 修繕工事

工 事 名	契約(千円)
屋外消火栓ユニット更新工事	5,390
ろ過装置三方弁更新工事	1,227
擬木柵修繕工事	396
合 計	7,013

2. 備品購入

備 品 名	契約額(千円)
軽トラック	1,254
業務用冷凍冷蔵庫	616
合 計	1,870

青少年の家の改修工事について

青少年の家は平成3年の開所から30年以上が経過し老朽化しているため、令和7年6月から管理研修棟・宿泊棟の外壁、屋根の改修、機械設備等の改修工事を行う。

工事期間中は、管理研修棟・宿泊棟を使用することなく実施できる日帰りプログラムや、他会場を利用した主催事業等を実施する。

また、電気設備、給水設備の工事を実施する令和7年12月は、水道、電気が使用できないため屋外創作棟、体育館等の全ての施設での研修受け入れを中止する。

1 工期

令和7年6月1日～令和8年3月31日

2 概要

(1) 建物

- ・管理研修棟・宿泊棟の外壁、屋根等の補修及び改修
- ・特定天井の耐震化工事

(2) 電気設備

- ・多目的ホール放送設備の更新
- ・電話交換機及び電話機の更新
- ・火災受信機及び副受信機の更新
- ・高圧引き込みケーブルの更新
- ・照明設備のLED化

(3) 機械設備

- ・給湯ボイラーの更新
- ・冷温水発生機の更新
- ・高架水槽の更新

令和7年度 島根県立青少年の家 主催事業等一覧（予定）

事業名等	事業のねらい	対象・人数（目安）	実施時期・場所
1 施設開放事業 ① 春のオープンデー ② 湖面カーニバル ③ サン・レイクフェスティバル	施設設備を広く県民に開放し、青少年の体験活動の場、地域の交流の場を提供し、「青少年の家」の施設の理解と活用の促進に資する。	どなたでも	年間3回 ① 4/27（青少年の家） ② 6/8（艇庫周辺） ③ 10/19（艇庫周辺）
④ ウキウキ施設開放デー *R7 限定（別紙参照）	上記ねらいに基づき、湖面活動やニュースポーツ・パラスポーツを中心とした体験活動を提供する。	どなたでも	年間5回程度
2 青少年教育事業 〈地域【保育所等】の宿泊体験活動モデル事業〉 ○ にんにんチャレンジ	基本的な生活習慣の形成と仲間と最後までやり通す力及び集団への適応力向上のきっかけとする。	年長児 各回 20-30 名	年間2回 日帰り ① 12/6（艇庫周辺） ② 12/7（艇庫周辺）
〈地域【公民館等】の宿泊体験活動モデル事業〉 ○ キッズチャレンジ	集団での生活体験や施設周辺での自然体験などを通して、協調性や自主性を学ぶきっかけとする。また、何事にも挑戦しようとする気持ちを育む。	小1～3年 各回 20-30 名	年間2回 1泊2日 ① 9/13-14（佐香コミセン） ② 11/8-9（佐香コミセン）
〈次代のリーダー育成事業〉 ○ サマーチャレンジ	様々な体験活動を通して、体験活動への興味・関心を高め、活動するために必要な知識やスキルを習得する。 多くの人と体験を積み重ねることにより、「社会を生き抜く力」として必要となる基礎的な能力を養う。	小4～6年 20-30 名 小6～高1年 20-30 名	年間1回 1泊2日 ① 12/20-21（佐香コミセン） 年間1回 2泊3日 8/7-9（佐香コミセン）
3 家庭教育支援事業 〈宿泊体験活動〉 ○ にこにこファミリー	親子でふれあったり、参加家族同士で交流したりする体験活動や講座、施設開放を提供することにより、家庭の教育力向上に資するとともに、体験活動への理解・普及に努める。	小学生を含む家族 10組程度	年間1回 1泊2日 11/22-23（三瓶）
〈ひとり親家庭応援〉 ○ エンジョイ！親子キャンプ		県内のひとり親家庭・ 8-12組	年間1回 1泊2日 5/24-25（青少年の家）
〈各種体験活動〉 ○ わくわく体験講座 ※R6～8 はグリーンパークとの連携事業含む。		小学生・未就学児 を含む家族 10組程度	年間8回程度 主に6月～1月
4 体験活動支援者養成事業 ○ 体験活動基礎講座	地域活動やボランティア活動に必要な理論や技術を体験的に学べる機会を提供し、活動する上で必要なスキルの向上を図り、併せて社会貢献への意欲を高める。	学生・青少年教育関係者、公民館等職員等 各回 20-30 名	年間3回 1泊2日 ① 5/25-26 ② 6/8-9 ③ 6/15-16
○ なかまづくりセミナー	人間関係づくりの大切さを体験的に学べる機会を提供し、学級経営や人材育成等に生かす意欲やスキルを高める。	教職員・研修担当者（官・民）・青少年教育関係者・学生など 各回 20-30 名	年間2回（日帰り） ① 7/30（雲南地域） ② 8/19（隠岐地域）
5 地域の体験活動支援事業 ○ 地域の体験活動支援事業	公民館等が学校や地域住民などの協力を得て行う宿泊や日帰りの体験活動を支援し、地域づくりを担う人づくり推進の一助とする。	教育委員会 公民館等職員 大学（学生対象）	通年（調整）
6 研究事業 ○ 効果実証研究	体験活動を行う良さ・効果について明らかにできるように各事業において視点を明確にして取り組む。		通年
7 プログラム開発事業 ○ 地域と連携した活動プログラムの充実	地元自治会やコミュニティセンターと連携してプログラム開発を進め、主催事業や研修プログラムの充実を図る。		通年
8 連携事業 ○ 地元地域及び連携施設との連携強化	体験活動の普及・啓発及び主催事業等の充実を図るため、施設連携の他、地元地域及び関係諸団体との連携強化を行う。		通年
9 アウトリーチ型支援事業 *R7 限定 ○ サン・レイク出張支援（別紙参照）	サン・レイクでできる体験プログラム（なかまづくり、パラスポーツ、ニュースポーツ、キャンプ体験等）の提供により、体験活動の普及啓発及び所の周知と利用促進を図る。	学校 保育園・保育所 児童クラブ 公民館等	通年（半日～1日）

(別紙)

工事期間中のみ実施する事業

1 出張支援

(1) 期間：令和7年6月18日（水）～令和8年2月28日（土）

各週水曜日から日曜日で半日単位

(2) 対象：学校、幼稚園・保育園・保育所、公民館、コミュニティセンター、児童クラブ
PTA活動等

※対象地域は松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町、海士町、西ノ島町、
知夫村、隠岐の島町

(3) 活動内容：サン・レイク職員が対象団体の元に出掛けて支援を行う

	活 動	人数	所要時間
①	なかまづくりゲーム	10～40	2～3時間
②	チャレンジ・ザ・ゲーム	10～60	2～3時間
③	【ニュースポーツ・パラスポーツ等】 カプラ、ペタンク、モルック、 ボッチャ、ラダーゲッターから複数選択可	10～30	1.5～3時間
④	【デイキャンプ体験】 テント立て、火起こし体験等	10～20	2～3時間
⑤	【創作活動】レザークラフト等	10～30	2～3時間

2 ウキウキ施設開放デー

(1) 期間：令和7年度中の土曜日に5回程度開催 開放時間：9：30～16：30

(2) 対象：どなたでも（予約不要）

(3) 活動内容：工事期間中でも使用可能な体育館、グラウンド、屋外創作棟、艇庫を利用し、ニュースポーツ、パラスポーツ、テント設営等の体験活動を提供する

第1回 令和7年 6月14日（土） ディスゲッター、ファミリーバドミントン等

第2回 令和7年 7月 5日（土） ラダーゲッター、モルック、ペタンク等

第3回 令和7年 9月27日（土） ボッチャ、車いすラグビー等

第4回 令和7年10月25日（土） 内容未定

第5回 令和7年11月15日（土） 内容未定

(別紙)

工事期間中も継続して提供する活動プログラム

活動	対象	場所	人数 (目安)	所要 時間	荒天時代替 プログラム	場所
サバニ (12, 1, 2月を除く)	年長児以上	艇庫 現地集合解散可	7~40	3h	ニュースポーツ、 パラスポーツ、 カブラ等、 なかまづくりゲー ム	体育館
カッター (12, 1, 2月を除く)	中学生以上		7~60	3h		
カヌー (12, 1, 2月を除く)	フリー (小4以下は 保護者等同乗)		2~30	1~ 3h		
やぐらづくり	小3以上	敷地内	~30	3h		
一畑薬師周辺登山	幼児~	敷地外 現地集合解散可	5~30	2~ 4h		
火起こし	小4以上	屋外創作棟前	~40	1~ 2h	火起こし	屋外創作 棟内
デイキャンプ(テント設 営、ニュースポーツ 7.8月、 12~3月を除く)	フリー	グラウンド等	~50	3h	テント設営、ニ ュースポーツ等	体育館
ニュースポーツ、パラ スポーツ、カブラ等	フリー	体育館等	~40	1~ 3h		
なかまづくりゲーム	小5以上	体育館	10~40	3h		
サンセットフライト (ねぐら入りの野鳥観察)	フリー	体育館 斐伊川河口	~40	1~ 2h	サンセットフライト (ねぐら入りの 野鳥観察)	体育館 バス内
天体観察	小4以上	体育館 屋外	~40	1~ 2h	天体観察	体育館
野外炊飯	小5以上	野外炊飯場 BBQハウス	8~40	4h	野外炊飯	BBQ ハウス
バームクーヘン	フリー		6~30	3h	バームクーヘン	
ぐるぐるパン等	フリー		10~30	3~ 4h	ぐるぐるパン等	
ホットサンド カートンドッグ	フリー		6~30	1h	ホットサンド カートンドッグ	
石窯ピザ	フリー	BBQハウス	6~24	4h	石窯ピザ	
窯利用(自主のみ)		屋外創作棟				

※は夕方・夜間の支援が可能

※上記のほか、自主活動での利用も可能

令和5年度 島根県立青少年の家運営委員会でいただいた主な意見

	意見・要望等	回 答
1	レジオネラ菌の発生について、予約状況への影響があったのか。	1泊2日の予約を日帰りに変更した学校があった。また、個人利用者でキャンセルをした団体があった。 このほか、学校の研修シーズンと重なったため、浴槽を使えるかどうかという問い合わせを複数いただいた。
2	改修工事を予定しているとのことだが、電気代が高騰しているため、ソーラー発電を設置してはどうか。最近では設置費用のかからないものもある。県の機関であるため災害時に役立つと思う。初期費用が不要なものもある。	工事の執行部署に伝える。 なお、改修工事では照明のLED化をする予定としており、電力の削減が見込める。
3	宿泊施設での害虫問題が騒がれているが、害虫駆除はどのように実施しているか。 宿泊室の寝具のクリーニングを徹底して欲しい。	ゴキブリ、ネズミに対して実施している。利用者の清掃に加え、指定管理者として日常清掃をしているため、トコジラミは発生しにくい環境であると思っているが、何かあれば薬剤散布などできる体制をとっている。 布団についてチェックし、必要であれば対策を講じる。
4	大学の学生との連携事業を実施しているが、今後も継続する方向なのか。また、どのような効果が出ているのか。	今後も継続の方向と思っている。 青少年の家の事業に主体的に関わってもらったことにより、大学に帰ってからリーダー養成という部分で活着していると聞いている。
5	令和5年度の利用者数について、コロナ前の利用者数と比較すると戻っていないが、今後は回復すると見込んでいるのか。	利用者数は、全ての年齢層で減少している状況。徐々に回復しているため、更に増加するのではないかと期待している。回復しない傾向は、他の施設でも同様と聞いている。 高校生以下の子どもの数が減少しており、1団体当たりの人数が減っている。企業研修や高齢者の方にも施設の利用をPRしていく必要がある。

	意見・要望等	回 答
6	<p>野外活動など危険が伴う事業があると思うが、危険予知トレーニングにも取り組んでいただきたい。</p>	<p>青少年の家でも、「地域の体験活動支援事業」で危険予知トレーニングを実施しており、コミュニティセンター等に職員が出掛けて実施している。ぜひ、ご相談いただきたい。</p>
7	<p>パラスポーツは、具体的にはどういうことをしているのか。</p> <p>用具の貸し出しは可能か。</p> <p>積極的に用具を活用し、研修等を企画して欲しい。</p>	<p>車いすバスケット、ボッチャ、ゴールボール、卓球等を体験できる。今年度の実績は、車いすバスケット、ボッチャの提供回数が多い。</p> <p>用具の貸し出しはできないため、青少年の家で体験していただきたい。</p>
8	<p>高齢者には第1駐車場から本館までの階段がきついという話を聞くが、上の駐車場を利用できないか。</p>	<p>1団体しか利用がない時ならいいかもしれないが、子ども達が活動しているところを車で通過するのは危険なため、第1駐車場を利用させていただいている。閑散期ならご相談いただければ対応できる場合があるかもしれない。</p> <p>なお、閑散期はバスの送迎を行っているため、そちらもご利用いただける。</p>
9	<p>改修工事についての新聞報道後、利用者からの問い合わせ等があったのか。</p>	<p>関係者から数件問い合わせがあった。今後、学校等へ直接お知らせするので、そのタイミングで問い合わせがあると考えている。</p> <p>影響が大きいため、利用者と相談していく。</p>
10	<p>ホームページに、青少年の家を利用した企業等利用者の声(研修による効果やメリット等)を掲載すると、利用率アップに繋がると思う。</p>	<p>現在は主催事業での様子しか掲載していないため、ぜひ取り組んでいきたい。</p>
11	<p>他県の青少年の家では、不登校の子どもへの取り組みで、大学生のサポーターに事業に関わってもらい人気となっている。青少年の家でも取り組んでいただきたい。</p> <p>また、不登校で悩んでいる家族のサロン等に呼び掛け等も実施して欲しい。</p>	<p>青少年の家でも、ほとんどの主催事業に島根大学、島根県立大学の学生サポーターに運営側として関わっていただいている。</p> <p>今後も連携を強化したい。</p>

誰もが、誰かの、 たからもの。

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい

それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない

互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる

そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は、

自分のサイズで、一生懸命生きる人を応援してくれる

未来への原動力

人が人のたからもの

誰もが誰かの応援団

いいけん、
島根県

